

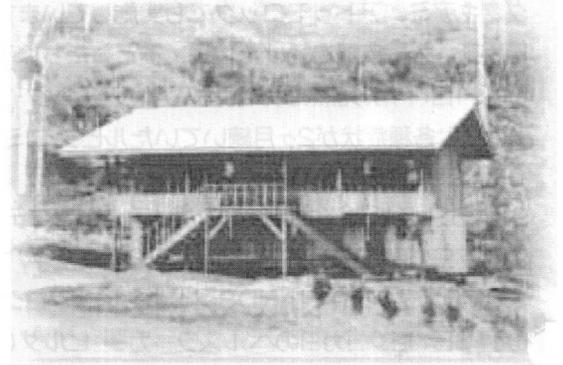
—アトゥモロック、本校としての認可に向けて校舎増築中—

長い歴史を持つボール本校の閉鎖で、サランガニ州のアトゥモロック分校の本校登録が必要なこと、又認可条件の一つ、校舎増築についてはHANDSが支援すること等すでにお知らせしました。

当会の外務省NGO補助金申請と併行して、現地では5月には建設を開始しました。雨続きで道路が寸断されたため馬でしか資材が運べず、7月完成予定が大幅に遅れています。心配された建設資金については、幸い9月になって補助金決定通知が外務省より届きました。自己負担分の資金調達問題は残りますが、施設面の問題は何とかクリアしそうです。

一方、現地ではもう一つの条件、有資格教師の確保に苦勞しているようです。過酷な山岳部の勤務、安い給与の山の学校に新たに教師を雇えたとの報はまだ届いていません。

アトゥモロックの6年生12名は全員HANDSの奨学生です。3月には民族衣装で、晴れてアトゥモロック本校卒業式に臨めるように、DECS（教育文化スポーツ省）の認可が待たれます。



—ビラードダンスチーム、マニラへ—

10月10日のTRIBAL SUNDAY（民族の日）に合わせて、4日には、Fr. ブランドと16名のビラード族がジェネラルサントス港から船でマニラに向かいました。首都圏の各都市で舞踊劇を披露し、民族の歴史や現状を伝えることになっています。ミンダナオはモロ（イスラーム教徒）の地との印象が強いマニラ市民の間に、今回のビラード族舞踊団は、どれだけLumad Mindanao（モロ以外の文化的少数派・先住民族）の存在、及び直面する課題を市民にアピールすることができるのでしょうか。

（文責：山崎）

参考資料：CMBの機関紙GONGNo.3
CMBディレクターFr.デオのメール

—CMBの新ディレクターにFr.デオが就任—

前任者Fr.ポールはこの1年余り、パシヨニスト修道会のフィリピン準管区長という多忙な立場でありながら、山のコミュニティー訪問などのCMBディレクターとしての任務も精力的にこなしてこられました。かなり大変だったようです。当会への報告も遅れがちでした。

一方、8月15日に正式に新ディレクターに就任したFr.デオはマニラからの転任です。苦行に近い山のコミュニティーめぐりが欠かせない新たな職場に戸惑いもあると思いますが、すでに届いた何通かのメールからは、CMBのすべてを一日も早く把握しようとの意気込みが伝わってきました。今後もCMBとHANDS間の連絡を密にして、意義ある活動にしていきたいと思います。

—女性の収入向上プログラムも始まったラムブソン多目的組合—

8月には時間がたりなくてラムブソンを訪ねることができず、組合育成事業の進捗状況は、山から下りてきたマリオ（ラムブソン分校教師）にカルンパンの宿舎で聞きました。アグロフォレストリー、農業資材の貸し付け、組合運営いずれも順調のようで、母親達もビーズ製品作りなどで現金収入をあげ始めたとのこと。詳細は、次回11月下旬の森田奈美さん出張（ラムブソン・プロジェクトはFIDRの助成事業）を待ってお伝えしたいと思います。

（山崎）